

# 翔羽

# はばたく

学校だより  
平成25年度  
12月20日発行  
手ノ子小学校

## 2学期を振り返って

12月12日(木)に、2013年の世相を表す「今年の漢字」が発表されました。選ばれたのは「輪」という字です。オリンピックの日本誘致が今年決定したことから「輪」になったのだらうと思われまゝ。揮毫した京都・清水寺の森清範(もり・せいはん)貫主(かんす)によると、「輪」という字には、大勢の人々が加わって円滑に回転していくという意味が込められているといひます。「わ」という読みは、平和の和に通じ、平和な輪のつながりをつくりまゝしよう、とコメントしてゐました。

今年度、手ノ子小学校では「みんなの『心が響き合う』学校づくり」を目指してゐます。「心が響き合う」ことは、人と人とのかかわり・つながりということから、「輪」や「和」と深い関係があるように思ひます。

「心を響き合わせる」ために、今年度、子どもたちは「しっかり聴くこと」「本気で考えること」「心を合わせること」の3つに取り組んでゐます。

2学期を振り返ってゐて、子どもたちは大変よく頑張ったと思ひます。

「しっかり聴く」については、他の人の考えを自分の考えと関係づけながら聴けるようになってきました。

たとえば、「〇〇ちゃんの考えと似ていて□□だと思ひます。」「〇〇ちゃんの考えとちよつと違って□□だと思ひます。」というような言葉がたくさん聞かれるようになってきました。また、「〇〇ちゃんが、そう考えたのは△△だからじゃない。」という言葉も聞かれました。

これは、考えながらしっかり聴いてゐる証拠だと思ひます。

「本気で考える」については、「教科書の何ページの何行目に〇〇と書いてあるから、□□だと思ひます。」というように、自分がそう考えたわけをつけ加えて発言することが当たり前になってきてゐます。

これは、自分で一所懸命考えようとしてゐる表れだと思ひます。



「心を合わせる」については、運動会も学習発表会も仲間と心をついに、一人ひとりが本気で取り組んだ感動的なものとなりました。

「心を合わせる」で、もう一つすばらしいと私が思ったのは、児童会で取り組んでいる「響き合うあいさつ」です。これまで、「あいさつ強調週間」は頑張っても、それが終わるとあいさつの声が次第に小さくなっていました。しかし、11月に行われた「あいさつ強調週間」の取り組みは違っていました。強調週間が終わってから、益々あいさつが響き合うようになってきました。毎朝、昇降口の前で子どもたちとあいさつを交わっていて、うれしくなりますし、子どもたちに元気をもらっているように感じます。

また、あいさつがすばらしい班から他の班にいいあいさつの波が広がって行って、全員のあいさつがよくなってきました。これも「子どもたちの心と声が合わさり響き合ってきた」証だと思います。

させられるあいさつから、自分が進んでするあいさつ、そして自分も気持ちの良いあいさつにレベルアップしているように感じます。本物の「響き合うあいさつ」に近づいているように思います。



このように、子どもたち一人ひとりが大きく成長した2学期でした。

## めざまの里音楽祭

11月16日（土）の午後、町民総合センター「あ〜す」で『めざまの里音楽祭』が開催されました。

ファンファーレバンドとして、4・5・6年生全員が出場し、「ヘビー・ローテーション」「茶色の小びん」の2曲を演奏しました。「ヘビー・ローテーション」は、今年度新たに挑戦した曲です。本格的に練習に取り組んだ10月から約1ヶ月でよくここまで創り上げることができたと思います。子どもたちの努力、指導してくれた先生方の苦勞を厭わない気持ちがあればこそできたことだと思います。



1・2・3年生も会場で温かい拍手を送っていました。

全員の心が合わさった、心に染みる、大変すばらしい演奏でした。